

NGSアドバンストファイバー

特殊繊維工場が完成

新規雇用50人 航空機向け本格量産



特殊繊維製造のNGSアドバンストファイバー(富山市高内・大沢野、武田道夫社長)が本社敷地内で建設していた新工場が16日、完成した。来年7月をめどに、航空機エンジン部品向けの特殊繊維「炭化ケイ素連続繊維」の本格的な量産に入る。今後、地元で約50人を新たに雇用し、従業員は100人体制とする。同

航空機エンジン向け部材を量産する新工場＝富山市高内

社によると、炭化ケイ素連続繊維を量産できる工場は世界初という。投資額は60億円。新工場は既存工場の隣接地1万1千平方メートルに建設した。事務棟を含め4棟で構成。延べ約6千平方メートルのスペースに、原材料から紡糸、焼成までの一貫生産ラインを設けた。生産能力は現在の10倍となる年10トで、将来の増設にも対応できるようにした。

炭化ケイ素連続繊維は、航空機エンジン部品の素材とし

て使われるセラミックマトリックス複合材の原料となる。金属材料に比べて軽く、強度や耐熱性が高い。同社は、高効率の大型旅客機用エンジン「GE9X」などの部品を手掛けるメーカーに供給する。

年内は試験生産を行い、来年から順次出荷を開始する。

航空機部品の認証手続きなどを経て本格生産は来年7月になる見通し。生産に加え、研究開発も同工場を進める。

16日に現地で行われた完成式には武田社長や石井隆一知事らが出席。武田社長は、同社に出資するGEエアビエーション(米国)とサフラン社(フランス)の関係者とともに会見し、「航空機業界で高まるニーズに対応していく」と語った。